

構想リニューアル・プロジェクトの検討について（案）

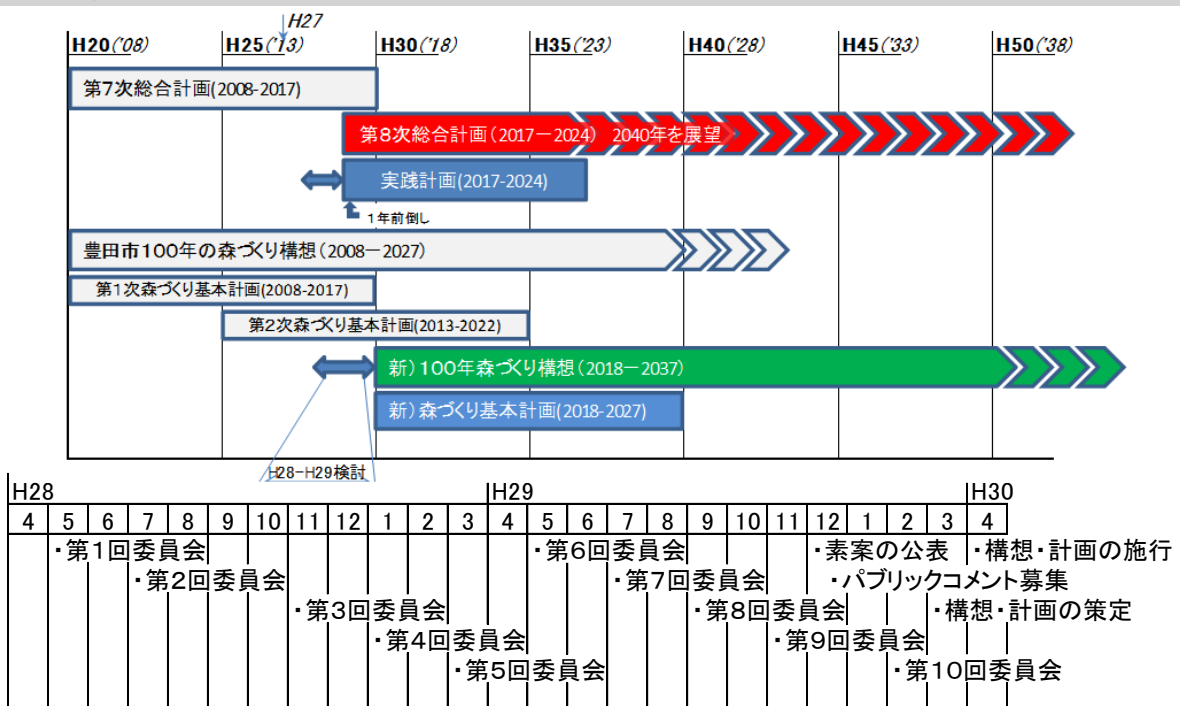
1 構想リニューアルの背景

- ・市町村合併を機に、長期的視点に立った森林の保全・活用方針の確立に向けて検討をはじめ、全国的にも先駆けて市町村における「森づくり条例」「豊田市100年の森づくり構想」を策定した。
- ・新生豊田市において邁進してきたが、目標と実行との乖離や様々な課題が浮き彫りになり修正が必要。
- ・国の政策転換や林業労働力の着実な減少、財政状況などの取り巻く環境の変化が大きく影響しており対応が必要。
- ・条例・構想策定後10年の区切りとなる平成30年に向け、改めて森林における現状と課題を見つめ直し、この10年間取り組んできた経験と新たな発想により構想の強化を図る。

2 リニューアルの基本的な考え方

- ・当初掲げた目的や4つの理念を受け継ぎつつも、“この地域の森林を恒久的に保全する”ための仕組みを進めていく。
- ・木材流通の変化や高まる木材需要にも対応すべく、“森林保全とのバランス”がとれた方針・施策とする。
- ・林業振興や地域振興にも寄与する“森づくりや木材資源活用を進めていく。
- ・都市と森林を併せ持つメリットを生かし、森林の公益性を発揮し木材資源も循環する自立した地域を目指し、市民や流域などに向けて発信力のある構想・計画とする。
- ・議論の幅が広く多岐に渡るため、構想・基本計画に適切に記載し、市民に分かりやすい表現に変えていく。また、必要であれば条例の改正も検討する。
- ・第8次総合計画（H29～）にも重要な施策として位置づけを進め、具体的施策は総合計画の重点プログラムや実践計画に位置付け実行性を上げていく。

3 計画の期間



※必要に応じて、臨時委員会、専門ワーキンググループによる検討や勉強会を開催する。

4 合併後の取組みの成果と課題

① 豊田市の森づくりの課題【別添資料1】

② 6つの主要プロジェクトの計画と実績の乖離（第2次森づくり基本計画）

	①間伐面積(ha)	②団地化面積(ha)	③緑の雇用修了生数(人)	④新設路網延長(km)	⑤利用間伐面積(ha)	⑥市地域材使用量(m ³)
計画量	1,550	1,212	10	25	265	600
平成26年実績	928	1,091	2	15	120	155
達成率	60%	90%	20%	60%	45%	26%

*④⑤の実績は平成25年実績。

- ・③緑の雇用担い手対策事業の研修修了生は平成24年から2名が続く。森林組合作業班員数は平成26年138名とこの4年間で▲33名減少。
- ・製材工場の稼働に向けて⑤利用間伐面積、⑥市地域材使用量の拡大が課題。

5 構想シンポジウムの結果

- ・森づくり構想シンポジウム結果（要約版）【別添資料2】
- ・報告書を次回の委員会で配布予定。

6 今後の議論のポイント

- ・森づくり構想の4つの基本理念の確認。
 - ① 公益的機能が発揮される森づくり
 - ② 木材の循環利用を進める森づくり
 - ③ 地域づくりと一体となった森づくり
 - ④ 人材育成と共働による森づくり
- ・4つの基本理念を実現するための強力な推進体制の再構築。全体—地区—現場の各段階において、行政と民間の役割分担の中で、人材を配置し育成していく仕組み検討。
- ・保全を担保するルールの設定検討（皆伐面積上限の設定、尾根部、河畔林保護等）
- ・木材の循環利用の推進

林業経営林では高効率な作業システム、防災に配慮しつつ積極的な路網整備が必要。稼働予定の製材工場への木材安定供給。
- ・林業補助金の改革

限られた予算の中で、補助金の配分の仕方をより効果的に行い、コストカットを図りながら実績を上げていく方策の検討。省力化の方策検討。
- ・森づくり基本計画の重点プロジェクトの再編と目標数値の設定。
- ・とよた森林学校の永続的な運営にむけた方策と、より多くの市民を対象とした事業検討。